

1. 基本情報

- (1) 国名：カンボジア王国（以下、「カンボジア」という。）
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名：シハヌークビル特別市
- (3) 案件名：シハヌークビル港新コンテナターミナル拡張計画（Sihanoukville Port New Container Terminal Expansion Project）（以下、「本計画」という。）
- (4) 計画の要約：本計画は、カンボジア唯一の大水深港であるシハヌークビル港において、新コンテナターミナルの拡張を通じて本港の貨物取扱能力を向上させることにより、物流機能の強化を図り、もって同国の経済社会基盤の強化に寄与することを目的とする。

2. 計画の背景と必要性

- (1) 本計画を実施する外交的意義

ASEAN 地域の連結性と域内の格差是正の鍵を握る国としてカンボジアは重要である。我が国は、カンボジア内戦後の和平・復興・開発への貢献や活発な要人往来、国際社会における協力（クメール・ルージュ裁判）等を通じ、同国との関係を強化してきた。近年は、二国間の経済関係も緊密化しており、我が国から同国への民間投資が増大している。2013 年 12 月には、両国関係が「戦略的パートナーシップ」に格上げされ、地域・国際社会の課題に関しても一層緊密に連携・協力していくことで一致している。

また、我が国の「対カンボジア国別開発協力方針」（2017 年 7 月）では、重点分野「産業振興支援」にて「地域の連結性強化と産業振興の観点から、ハード及びソフト両面における物流網（道路、港湾、税関など）の強化」を行うとしており、本計画はこれら方針に合致する。

- (2) 当該国における港湾セクターの開発の現状・課題及び本計画の位置付け

カンボジアの主要国際港は、タイ湾に面したシハヌークビル港（以下、「本港」という。）と、首都プノンペンのメコン河岸にあるプノンペン港の 2 港がある。プノンペン港は河川港のため貨物取扱量に制約があり、同国唯一の大水深港である本港が大型／コンテナ船による貨物のほぼ全量を取扱う主要港である。また、本港はアジア開発銀行が主導する大メコン圏開発プログラムにおける南部経済回廊の要所に位置しており、地域的な物流の拠点となることが期待される。「シハヌークビル港新コンテナターミナル拡張計画」は、円借款にて建設中の本港新コンテナターミナルの貨物取扱能力の増強のため、新たに 2 バース分のコンテナターミナルの建設と機材の導入を行うものである。

本港のコンテナ貨物取扱量は、過去 5 年間（2015 年～2019 年）で年平均 14%増加し、2018～2019 年は前年比 18%前後と急増している。本港のコンテナ貨物取扱能力は既に逼迫しており（取扱能力：70 万 Twenty-foot Equivalent Unit（以下、「TEU」という。）に対し 2019 年実績は 63.9 万 TEU）、運営を担うシハヌークビル港湾公社（Port Authority of Sihanoukville。以下、「PAS」という。）は、バースの改修やクレ

ーの増設等により短期的な対策を実施している。加えて、現在実施中の円借款「シハヌークビル港新コンテナターミナル整備事業」により、コンテナ貨物取扱能力を増強（＋45 万 TEU。2024 年に供用開始予定）する予定だが、貨物取扱量は 2023 年には年間約 115 万 TEU を超えると PAS により推計され、また、コンテナ船の大型化を踏まえた大水深の連続バースの早急な整備が求められている。

なお、本港の拡張は、カンボジアの国家開発計画「第四次四辺形戦略（2019-2023）」の重点項目「物流システムの向上及び輸送、エネルギー、デジタル分野での連結性向上」に位置付けられている。

3. 計画概要

* 協力準備調査の結果変更されることがあります。

(1) 計画概要

① 計画内容：

ア) 施設、機材等の内容：コンテナターミナル・バースの整備（第 2 バース：延長 410m, 水深 16.0m, 50 万 TEU, 第 3 バース：延長 440m, 水深 17.5m, 65 万 TEU）、アクセス道路の整備、航路・泊地の浚渫、機材（ガントリークレーン等）の調達、管理棟・整備棟の建設

イ) コンサルティングサービスの内容：詳細設計、入札補助、施工監理等

② 期待される開発効果：本港のコンテナターミナルの拡張（コンテナ貨物取扱量：63.9 万 TEU（2019 年実績値）→181 万 TEU（2030 年目標値））により、港湾サービスの向上並びに同国の貿易促進及び経済社会発展への貢献が期待される。

③ 借入人：カンボジア王国政府（The Royal Government of Cambodia）

④ 計画実施機関／実施体制：シハヌークビル港湾公社（PAS）

⑤ 他機関との連携・役割分担：特になし

⑥ 運営／維持管理体制：本計画の実施機関である PAS の運営・維持管理能力及び財務体質に特段の問題はない。

(2) その他特記事項

- 環境社会配慮カテゴリ分類：B
- ジェンダー分類：GI（ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件）
- 他の援助機関の対応：中国支援により、プノンペン－シハヌークビル間の高速道路整備（2023 年完工予定）を実施中。高速道路の終点からシハヌークビル港までの道路はカンボジア政府予算にて整備予定。

4. 過去の類似案件の教訓と本計画への適用

カンボジア向け円借款「シハヌークビル港緊急リハビリ計画」及び「シハヌークビル港緊急拡張計画」の事後評価結果等から、多くの船舶が入港する週末にはトラック・トレーラーが集中し、近隣地域の交通の妨げになっていることから、ゲート周辺道路の拡幅工事等も検討に値するという教訓が得られている。本計画においては、上記教訓を踏まえ、輸送車両の増加に対応するための施策も併せて実施することを検討する。

以 上

[別添資料] 地図

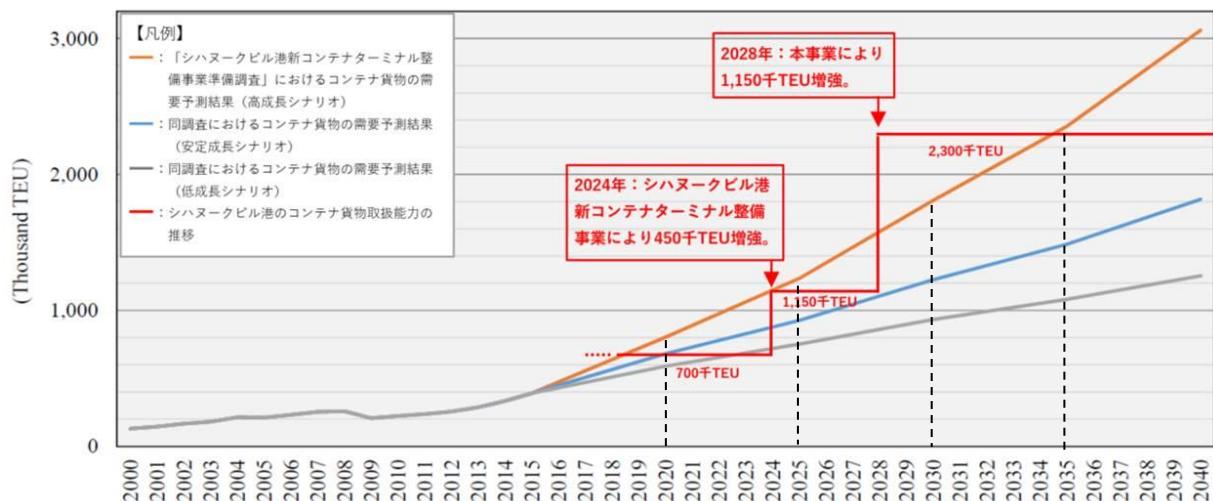


出典：ADB



出典：PAS

[別添資料] 図表



コンテナ貨物取扱量の需要予測とコンテナ貨物取扱量の計画

[別添資料] 写真



本計画対象地



コンテナ貨物取扱能力が逼迫している既往コンテナターミナル